

ご支援ありがとうございました

大日岳遭難訴訟原告 内藤 悟 内藤万佐代

ご支援いただきました「北アルプス大日岳遭難訴訟」は、さる3月12日名古屋高裁金沢支部の和解勧告を受け、以後国との協議を行い、7月26日に遺族の意向に沿った形での「全面勝利和解」を勝ち取ることができました。

まずは5年半にわたり、署名のご協力をはじめとしてこの裁判を支えてくださった全ての方へ厚くお礼申し上げます。皆様から頂いた30万筆の署名は勝利への原動力となりました。

安全な登山を教える国の研修で講師の不注意により、研修生だった息子を死亡させ、反省も謝罪もなく責任回避に終始した主催者・国の態度に納得できず、おこした裁判の5年4ヶ月は大変辛く苦しいものでした。

生活の全てをかけて精一杯闘い、私達は勝訴を勝ち取りました。

原告、弁護団、支援者の祈りが一つになり、喜びをかみしめた2006年4月26日の富山地裁勝利判決は生涯忘れられない日となりました。

しかしその喜びもつかのま、非情にも国は控訴し、さらなる苦しみを遺族にあたえたのです。原告はもとより関係者一同は深く落胆しましたが、たくさんの支援に支えられ、最終的には一審判決よりさらに踏み込んだ勝利和解という素晴らしい結果を得ることが出来ました。

国は遺族に原審維持、公開で行う安全検討委員会の設置、亡くなった息子と遺族にたいし、謝罪する事を約束しました。

事故から7年目にして、ようやくひとつのけじめがつき、心より感謝し安堵しています。

限りない不安を抱えて提訴を決意した日、遺族の周りにはだれもいませんでした。しかしいまは多くの国民が、この裁判に関心を持ち、子どもをなくした親の辛さを思い、声援を送ってくださいます。

おかげさまで5年半の裁判を闘い抜くことができました。

裁判は終結しましたが、国が事故防止対策をいかに確立するか、支援者の皆様と一緒に最後までしっかりと見届けたいと思います。

長い間ご支援ありがとうございました。

2007年7月26日